



新生児集中ケア 認定看護師 の活動紹介

新生児集中ケア認定看護師

7C2(NICU)病棟 向井 直美



NICUは新生児集中治療室の略語で、予定日より早く生まれた赤ちゃん、体重が少ない赤ちゃん、肺や心臓などに病気をもった赤ちゃん、仮死状態で生まれた赤ちゃんなどが入院する病棟になります。日本では出生数は減少していますが、体重の少ない赤ちゃんが増えているため、NICUに入院する赤ちゃんの数は増加しています。

NICUでは保育器や生体管理モニター、人工呼吸器などを常備して、24時間体制で赤ちゃんを受け入れています。入院は年間200名程度で、当院で生まれた赤ちゃんが4分の3、近くの病院からの受け入れが4分の1の割合となっています。

新生児集中ケア認定看護師は、予定日より早く生まれた赤ちゃんや病気を持って生まれた赤ちゃんのお世話をさせていただいています。赤ちゃんはおなかの中で成長し、外の世界で生きていけるようになってから生まれてきます。しかし早く生まれた赤ちゃんはまだ成長発達の途中であり、生まれた時の赤ちゃんの成長に合わせた援助が必要になってきます。病気を治すだけでなく、赤ちゃんが落ち着いて生活でき成長発達が正常に行われていくように環境を整え援助していくことも大切な仕事です。



NICU(新生児集中治療室)

NICUは感染予防のために、病棟が閉鎖されています。面会のときはインターフォンを使用して自動ドアから病棟に入ります。



面会中のお父さん・お母さんは、赤ちゃんに直接触れたり（タッチ）、オムツを替えたり、写真やビデオ撮影をしたりと、赤ちゃんと一緒に時間を楽しんでいます。昼間はお仕事をされていて面会できないお父さんのために夜間の面会時間もあります。また予約制で時間が限られていますが、お父さん・お母さんの子育てを手伝ってくれるおじいさん・おばあさんの面会もできます。面会の時には赤ちゃんの様子、育児、母乳についてなど、色々と説明をさせていただいています。

これからも赤ちゃん一人ひとりの成長発達に合わせた看護を提供できるようご両親とともに赤ちゃんを見守り育てていきたいと思えます。



明るすぎないように保育器にはカバーを掛けています。保育器は温度が0.1℃刻みで調節ができ、湿度や酸素の濃度も1%刻みで増減することができます。



診察室 シリーズ⑮

脳卒中の 新しい 治療について

脳神経内科医長
三原貴照



『脳卒中の現状』

2011年に脳卒中の死亡者数は肺炎と逆転し、がん、心疾患、肺炎に次いで、日本人の死因の第4位（全体の9.9%）となりました。

それでは脳卒中の患者数は減少したのでしょうか？脳卒中の患者数は、約134万人（厚生労働省2008年患者調査）で、高齢者の増加や糖尿病、高脂血症などの生活習慣病の増加により、2020年には288万人になることが予想されています。つまり、亡くなることは減ったものの脳梗塞を患う方は増加する訳です。発症した場合、例え一命を取りとめても後遺症を残す人も多く、寝たきりなど要介護の原因の4割、認知症の原因の2～3割は、脳卒中がきっかけとなっています。ですから従来にも増して脳卒中の予防が必要なのです。

『脳卒中の予防』

脳卒中の約4分の3を占める脳梗塞を例にあげると、一番大事なのはメタボリック症候群、つまり高血圧・高脂血症・糖尿病の治療です。これらの治療をキチンとかかりつけ医で受けていただくことが大事です。

また最近「心房細動」という不整脈が原因となった脳梗塞（心原性脳塞栓症）が増えていて、脳梗塞全体の20～30%を占めており注目されています。予防薬である抗凝固療法も日々発展し、以前からのワーファリン以外に、2011年から新規抗凝固薬（ダビガトラン、リバーロキサバン、アキピサバンなど）が発売されました。そのため、下記に当てはまる心房細動をお持ちの方は主治医に相談してください。

- ・ 高齢者（75歳以上）
- ・ 高血圧
- ・ 心不全
- ・ 糖尿病
- ・ 脳卒中あるいは一過性脳虚血発作の既往

『新しい治療 t-PAについて』

「t-PA(ティーピーイー)」をご存じですか？欧米では以前から有効とされていましたが、日本では2005年10月から発症3時間以内の超急性期脳梗塞の治療薬として保険適用され、当院でも使用しております。

しかし、適応になる患者さんはまだまだ少なく全体の1～2%程度にしか実施できていません。これが2012年8月31日から発症4.5時間まで拡大され、これまでより多くの患者さんに投与できることが期待されています。

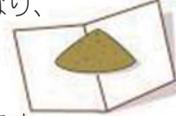
この薬は点滴で投与します。血栓を溶かすことで劇的に症状を改善させる一方で出血を合併症として引き起こすことがあり、患者さんに投与できるかどうかについてはいくつか条件があります。

- ① 脳梗塞になってから4.5時間以内に投与を開始できること。そのためには、何時何分に症状が起こったか、あるいは何時まで元気でいたかを確認する必要があります。例えば寝ていたり、意識が悪くて倒れていたりして症状がいつ起こったか分からない患者さんでは、最終正常確認された時間となるので、その時間から4.5時間経っていたら残念ながら投与できません。
- ② 症状が出た時間が分かる患者さんでは、t-PA投与条件に合うかどうかの検査（採血や心電図、頭部CT/MRIなど）をします。その検査に1時間ぐらい必要となりますので、発症から3.5時間までに病院に到着していただく必要があります。
- ③ 症状が急激に良くなっている方や、症状がとても軽い方は、あえて出血合併症の危険性を冒してまでt-PA投与を行わないことがあります。
- ④ 出血を起こしたことがある方、最近手術を受けられた方などはt-PAができないこともあります。



あ 薬 の 話 . . . 14

かん ぼう やく 漢方薬について



最近ではテレビやドラッグストアなどでもよく見かけられるようになり、漢方薬を飲んだことのある方も多いのではないのでしょうか。
1976年（昭和51年）からは病院でも使えるようになりました。
漢方薬は私たちの生活の中でどんどん身近な存在になりつつあります。
今回は、そんな漢方薬の服用方法や副作用についてお話します。

『漢方薬とは』

漢方薬とは自然由来の生薬を2種類以上組み合わせたものです。生薬には、植物の草根木皮を中心とした植物由来のもの、石膏や滑石などの鉱物由来のものや動物の皮や骨、昆虫などの動物由来のものなど自然由来のさまざまなものが使われています。漢方薬は、これらの生薬が持っている性質を活かし、副作用が起りにくく長期間安心して服用できるようにして作られています。

漢方には、エキス剤、煎じ薬、軟膏、丸剤や散剤といったものがあります。通常、病院でもらう漢方はエキス剤になります。

エキス剤とは、インスタントコーヒーに似ていて、生薬から抽出したエキスを顆粒にしたものです。長期間の保存ができ、携帯に便利という特徴があります。

『漢方薬の服用方法について』

漢方薬は、食前または食間の空腹時に内服します。空腹時は薬の吸収がよく、食事に含まれる成分の影響を受けにくいからです。食前、または食間が飲み忘れやすいのであれば食後に内服してもかまいません。漢方薬の中にも生薬に「地黄」が含まれているものは胃がもたれる場合があるため食後に内服したほうが胃への刺激が軽減される場合もあります。



『漢方薬の副作用について』

漢方薬は、自然由来のものが使われているため副作用は出にくいと言われています。しかし、全く副作用がないわけではありません。体質に合わない漢方薬を服用すると副作用が現れる場合があります。生薬で注意が必要な副作用について下記のようなものがあげられます。

- 甘草を含む漢方(芍薬甘草湯、六君子湯など)
- ・・浮腫、体重増加、高血圧、筋力低下、脱力感、筋肉痛
- 石膏を含む漢方(防風通聖散、釣藤散など)
- ・・食欲不振、みぞおちの不快感、軟便、下痢
- 地黄を含む漢方(八味地黄丸、十全大補湯など)
- ・・食欲不振、みぞおちの不快感、吐き気、嘔吐、下痢
- 大黄を含む漢方(潤腸湯、大黄甘草湯など)
- ・・食欲不振、みぞおちの不快感、腹痛、下痢
- 附子を含む漢方(真武湯、牛車腎気丸など)
- ・・動悸、のぼせ、舌のしびれ、吐き気
- 麻黄を含む漢方(葛根湯、麻黄湯など)
- ・・頻脈、動悸、不眠、精神興奮、消化器症状、泌尿器症状



漢方薬であっても処方された用法用量をきちんと守って服用してください。また、内服していて不調を感じた場合は医師・薬剤師に相談してください。(薬局)

最新 機器

紹介

新しい体外衝撃波結石破碎装置 (ESWL)の導入



体外衝撃波結石破碎装置

泌尿器科では昭和62年に初代の結石破碎装置を導入して治療を開始して以来、2代目を経て今回、平成24年11月から3代目のドルニエ社製の最新機器を導入しました。

結石の約90%は“レントゲンに写る”カルシウム結石ですが、尿酸結石のような“レントゲンで写らない”結石は、従来機器では治療が困難でしたが、最新の機器ではエコー装置を併用することにより、破碎が可能となりました。結石破碎治療中の“痛み”は軽く、通常の鎮痛剤は使用しますが、麻酔は不要で、入院の必要もなく通院で治療が可能です。

結石の発作時の痛みは“仙痛発作”と言われ、とても強いものです。早急な治療を希望される患者さんも多く、医学的に問題がなければ、可能な限り受診当日の治療を行っています。

ただ、すべての結石が結石破碎装置のみで治療が可能な訳ではありませんので、担当医と相談して適切な治療法を決め

ていただきます。尿路結石は、男性では11人に1人、女性では26人に1人が一生の間に一度は経験するとともに身近な疾患です。また、再発することが多く、治療後の再発率は5年で40～70%との報告があります。特に、結石の大部分を占めるカルシウム結石に対しては、有効な予防法は無く、昔から言われている“水分摂取”が今でも最も有用です。

食生活の欧米化により先進諸国で尿路結石が急速に増加しています。動脈硬化と尿路結石の発生機序が似ていることが明らかになっており、肥満や動脈硬化を予防する食生活、生活習慣の改善が結石発生を予防することもわかっています。結石の痛みで苦しむことがないように、日々、節制した生活を送りたいものです。

泌尿器科部長 山田幸隆

胎児異常の早期発見に有用な 最新超音波機器の導入



超音波診断装置

従来、わが国の妊婦健診は妊娠初期に4週ごと、中期～後期に2週ごと、末期に1週ごとの検診を受けることによって妊娠後期により詳細な検査を行ういわゆるピラミッド型の妊婦健診が行われてきました。しかし、最近は妊娠初期(11～14週)および中期(18～20週)に胎児の異常を詳細にスクリーニングし、できるだけ早期に胎児の異常を発見しようとする逆ピラミッド型の妊婦健診が、欧米に習って日本でも行われるようになってきました。

そこで当院でも平成24年2月に母体・胎児診断センターが開設されると同時に最新の超音波診断装置 (volusonE8 expert(BT12))とマトリックス型プローベ (RM6c) と経膈プローベ (RIC-6-12-D) が導入されました。このマトリックス型の4Dプローベ(RM6c)や高周波4D経膈プローベ(RIC-6-12-D)の導入により妊娠初期の胎児異常や婦人科疾患を早期に発見することだけ

でなく、深部における詳細な良質の4D画像を捉えることが可能となりました。また、HD-live（仮想光源）により体表のリアルな画像を映し出したり、心臓の立体的構築を3断面から捕らえるSTIC、VCAD機能による胎児心奇形の早期発見さらには頂部肥厚（NT）、鼻骨の有無、三尖弁逆流（TR）、静脈管逆流などをチェックすることにより染色体異常のスクリーニングも可能となりました。

現在、母体・胎児診断センターでは毎週木曜日の午後(予約制)から妊娠初期（11～14週）と妊娠中期（18～22週）の胎児を対象に胎児異常のスクリーニング検査や羊水検査による染色体検査などを行っていますので是非ご利用ください。

HD-live画像



4D画像



周産期母子医療センター長 三宅良明



特殊外来

レーザー治療外来

1998年に当院は、公立病院としては三重県で初めて、赤あざ用のレーザー装置（パルス色素レーザー、Photogenica V）を購入し、2001年には黒、青、茶あざ用のレーザー装置（Qスイッチアレキサンドラライトレーザー）を導入しました。現在、血管腫、母斑など先天性皮膚疾患を主に治療対象としています。

レーザー外来での治療利用者数
(平成24年1月～12月)

	赤あざレーザー	黒・青・茶あざレーザー
皮膚科	142人	96人
形成外科	10人	44人
合計	152人	140人

皮膚色素病変用レーザー

当院では赤色病変用のパルス色素レーザー治療装置と、黒・茶・青色の色素病変に有効なレーザー治療装置を使用し皮膚色素病変を治療しています。

火曜日、水曜日の午後に皮膚科が、金曜日の午後には形成外科がレーザー外来を設け、専門的に赤色病変の診療、治療に加えて、黒から青、茶色までの色素性病変の診療、治療を行っています。あざ治療は保険適応ですが予約が必要です。

1.Qスイッチアレキサンドラライト（黒・青・茶あざ）レーザー



755nm（ナノメータ）の光を出すことができるレーザーで、皮膚の色素性病変部の黒色のメラノソームを破壊することで色素性病変を治療します。太田母斑、異所性蒙古斑、外傷性色素沈着、老人性色素斑などで効果が証明されています。1歳までですと扁平母斑が軽快する例もあります。

2.パルス色素（赤あざ）レーザー



585nm（ナノメータ）の光を照射できるレーザー装置で、照射により赤い皮膚病変部の赤血球を破壊することで、周囲の異常血管を治療します。単純性血管腫、毛細血管拡張症、いちご状血管腫、その他の赤い皮膚病変で効果が見られます。

皮膚科部長 谷口芳記

病院食のご紹介

平成24年5月、栄養管理室と厨房は増築棟に移りました。新厨房は汚染域と非汚染域に区画され床はドライシステムで、衛生管理の徹底がさらに図られるようになりました。

厨房のリニューアルに伴い、ご出産された方の「祝い膳」をグレードアップいたしました。「洋食フルコース」と「和食膳」のお好きな方を選んでいただけます。趣向を凝らしたお料理や演出に患者さんから好評をいただいております。



新しくなった厨房

特室の方には、ドリンクや食器など、よりこだわった食事を栄養士が専用ワゴンで部屋にお届けしています。



〈洋食フルコース〉



トマトのカプレーゼ風/色々野菜のスープ
魚介の香草焼/国産牛肉のスカロピーネ～野菜と共に～
白いデザートとフルーツ/ロールパン

〈和食膳〉



紅白にぎり/そば汁/茶碗蒸し/炊き合わせ
鯛の姿焼き/天麩羅/揚げ出し豆腐
つくねの照焼き/鰻の酔の物/果物/ケーキ

また入院食では、食事をおいしく 楽しく 食べていただけるように、季節感のある料理・手作りデザート・メッセージカード等による行事食を月1回お出ししています。

患者さんの嗜好やニーズを把握して、制限ある中でも、よりおいしく より満足度の高い「安全」「満足」「快適」な食事の提供を目指しています。



〈クリスマスの手作りケーキ〉



〈ひなまつりのちらし寿司〉

—外来化学療法室を整備しました—

近年の抗がん剤の副作用に対する補助療法の進歩や外来化学療法の体制の充実などにより、従来は入院で行われていた化学療法を、通院しながら外来化学療法室で治療することが可能になりました。

スタッフ共々、「患者さんが自宅での生活や普段の社会生活を送りながら、快適に安心してより良い医療を受けることができる」ように支援しています。



当室には点滴用ベット11床とリクライニングチェア3床(いずれもテレビ設置)が整備されており、明るいスペースでリラックスしながら治療を受けることができます。

第3回 市立四日市病院市民公開講座報告

テーマ もっと知ろう！口腔がんのこと



口腔がんは年間約7000人が罹患しており、全がん中の1～2%を占めています。

50～60代の中高齢者が最も多いですが、高齢者も増加しており、また、最近では若年者も増加傾向のようです。

口腔がんの発生には生活習慣の影響が大きく、特に飲酒・喫煙が大きく関与しています。喫煙で7倍、飲酒で6倍、両方が揃うと相乗作用により、なんと38倍も口腔がんになる危険は高まるとのことです。

口腔がんは、がんのできる場所により舌がん・歯肉がん・口腔底がんなどがあり、その中でも舌ガンが最多です。また、首のリンパ節にも転移しやすいようです。

治療としては手術・放射線治療・抗がん剤治療があり、腫瘍の大きさによっては、併用した治療法となります。腫瘍の大きさに関わらず切除することは可能ですが、治療により口腔機能に障害が生じます。

口腔機能（えんげ・そしゃく 摂食・嚥下・咀嚼・構音（発音）など）は日常生活を営む上で必要不可欠ですので、治療に伴う障害を十分に理解したうえで、治療をしていくことが重要となります。

【日時】 平成24年12月15日（日）

午後2時～4時

【場所】 市立四日市病院 研修センター

【内容】 口腔がんの基礎知識や治療法、生活習慣における発がんの危険性など専門医から講演の後、質疑応答も行われました

【座長】 中央手術部長 蜂須賀 文博

【講師】 歯科口腔外科部長 小牧 完二

歯科口腔外科副部長 長谷川 正午



今回の市民公開講座も100人を超える多数の方にご参加いただき、会場からあふれるほどでした。ご参加いただいた皆さま、ありがとうございました。

今後もこのような講座の機会を利用し、がんについての正しい知識を身につけていただければと思います。

（地域連携・医療相談センター『サルビア』

伊藤 幸代 記）

災害対策訓練を実施しました



2月12日に、震度6の直下型地震が北勢地域に発生したことを想定して災害対策訓練を実施しました。20人の模擬傷病者に対して、玄関ホールで一次トリアージを行なった後に、傷病状況に応じて重傷者用、中等傷者用、軽傷者用の各エリアに搬送し、二次トリアージ及び治療を実施する訓練も行いました。医師、看護師をはじめ160人以上の院内従事者が訓練に参加し、災害時の行動について確認を行いました。



がん患者さんとお家族のための

患者サロン(学習会・交流会) を開催しています！！

がんと診断されると、その症状や治療のこと、また生活していく上でいろいろな悩んだり、戸惑ったりされることが多いのではないのでしょうか。

そのため当院では、日ごろ感じておられる悩みや不安を話し合い、少しでも安心して治療や療養を続けていただけるよう、平成24年11月から定期的にミニ学習会・交流会を開催しています。当院に受診されていない方もご参加いただけます。

お気軽にお越しください！！

- ◆日時 毎月 第2水曜日
午後2時～4時
- ◆場所 市立四日市病院
2階 会議室21
- ◆対象者 がん患者さんとお家族
- ◆参加費 無料
- ◆お問合せ・申込先
地域連携・医療相談センター
『サルビア』

※できるだけ事前にお申し込みをお願いします



熱心に聴き入る皆さん

◆今後の開催予定

日にち	内容	講師
4月10日 (水)	・肺がん ・暮らしに活かす 医療福祉サービス ・お薬ワンポイント レッスン	・呼吸器内科医師 伊藤 ・医療ソーシャル ワーカー 吉川 ・薬剤師 濱野
5月8日 (水)	・放射線治療 ・お口の中のケア	・放射線科医師 大河内 ・歯科衛生士 江崎
6月12日 (水)	・婦人科がん ・気分転換と ストレス対処法 ・お薬ワンポイント レッスン	・婦人科医師 小林 ・臨床心理士 松本 ・薬剤師 牧村



小グループで話が
盛り上がります！！



■医療福祉サービスや医療機関のご利用、また在宅療養等についてお困りの場合は、
地域連携・医療相談センター「サルビア」へご相談ください
 相談時間:月～金 / 9:00～17:00 (原則予約制) TEL354-1111 (内線) 5185

編集・発行 市立四日市病院 くすのき編集委員会 〒510-8567 四日市市芝田二丁目2番37号 TEL(059)354-1111(代)
 夜間・休日 FAX(059)353-7337 ©事務局 FAX(059)352-1565